

私の三年間

御津中・3 渡辺 心結

私が三年間でいちばん頑張ったこと。それは、二年生の冬に出場したソロコンテストだ。

ソロコンテストは楽器奏者とピアノ伴奏で出る大会だ。母が、「ソロの大会に出るのはいい経験になるよ。」と言っていたので、もつと上手くなれるなら、とエントリーした。

私は、アルトサクスを吹いている。二年前くらいからサクスを習っていた。そのサクスの先生のところで色々な曲を聴いて、曲を『アンダンテとアレグロ』に決めた。この曲は、聞いた時に、他の曲とは違う感じがした。はじめと終わりで速さが違うところや、最後の指を速く動かして終わるところがカッコよくて、好きだなと思った。サクスを始めて二年の私にはちょっと難しい曲だったけれど、吹けるようになりたいと思い、この曲に決めた。

ソロコンテストに出られるのは三人だったが、エントリーしたのは私をふくめて四人だったので、オーディションがあった。オーディションまでは二週間くらいあったが、オーディションの時の演奏は最悪だった。音を何度も間違えながら、なんとか最後まで通った者の、音が悪く、ひどかった。やばいなと思って友達のところへ戻ったら、友達も納得した演奏ができなかったらしく、何人か泣いていた。

オーディションの結果で、私は受かったが、四人中三人なので一人落ちてしまった。その子はピアノがとても上手で、私が伴奏を頼んだら引き受けてくれた。私はその子のためにも一緒に頑張ろうと思った。

十月。頑張ろうと決めたものの、全然練習していなかった。楽器

は出すのも時間がかかるので、時間はあってもやる気が出なかった。なので、十月になっても遅い速度でしか演奏できなかった。

『アンダンテとアレグロ』この曲は始めのアンダンテの部分は速度が遅く、ゆったりとした音がきれいな曲だったが、次のアレグロの部分は、速い速度で、細かい指の動きが難しい曲だった。でも、私は指を速く動かすのが苦手だった。

私はサクスを始めたところからの癖で、サクスの鍵盤を押さえる指が伸びていて、鍵盤から遠く指が離れてしまっていた。鍵盤からの距離が遠い位置にあると、鍵盤を押さえるのが遅くなってしまいうので指を速く動かすことができない。

そのころの私は吹くだけで満足していた。三十分くらい練習したからいいだろう、と。そんなふうに練習していたら母にこう言われた。「そんなふうに練習していいの？やる気はあるの？」と。

ある日、ピアノとサクスと一緒に練習をした。ピアノはすごく速く弾くことができていた。友達は毎日練習してくれていた。私は、全然吹けなくて恥ずかしかった。このピアノに合うくらいにこよく吹きたい。そう思った私は、今まで以上に練習を頑張った。指を動かすのが難しいところを何度も練習した。得意なところよりも苦手なところを練習するようにした。すると、苦手なところがだいぶできるようになり、十二月くらいには曲をだいぶ吹けるようになっていた。

十二月はアンサンブルコンテストがあった。フルート、クラリネット、サクス、バスクラリネットの四人で出場するはずだったが、私の弟がコロナウイルスに感染してしまったので、私は出場できなかった。でも、四人で頑張って練習できて楽しかったし、いい経験になった。アンサンブルコンテストが終わったので学校でもソロコンテストの練習をするようになった。

学校では、外部講師の佐野先生に教えてもらうことが多く、友達

のピアノと合わせて練習することもできた。佐野先生に教えてもらったことは主に曲の表現のことだった。フォルテやピアノなどの強弱記号がないところでも高い音に向かって大きくしていく、などいろんな方法があった。悲しく、力強く、踊るように。表現豊かに演奏できると、音に色がついていくようだった。佐野先生やサクスの辻先生の演奏も表現豊かで、聴いていると楽しくなるようだった。佐野先生は、こう言っていた。「吹いている人が楽しそうに吹くと、聴いている人も楽しくなる」と。

そのためには体を揺らしながら楽しそうに吹くことが大事だった。その時は私は吹くことだけで精一杯だったのであまり体を動かして吹くことはできなかったけれど、私も聴いている人が楽しくなるような、感動するような演奏がしたいと思った。

本番の一週間前、友達と辻先生のところまで合わせて吹いた。指がだいぶ動くようになり、佐野先生に表現を教えてもらったので、始めたときにはぜんぜん違う演奏ができた。母は、「本番でもこの演奏ができるといいね。」と言っていた。

そして本番の二月五日。本番は午後だったので午前中は練習していたが、すごく調子が悪かった。それもあって、私も友達もちよつと緊張していた。私は、舞台裏のちよつと暗い感じが苦手だ。舞台裏に行くときさらに緊張が増す。朝調子が悪かったことを心配していたら、友達が肩をたいて応援してくれた。私は、ピアノ伴奏をしてくれるのがこの子でよかったなとすごく感謝した。

本番の演奏は、少し間違えてしまったこともあって、少し心配したが、母はすごく感動していた。「今まででいちばんいい演奏だったと思う。」それを聞いただけですごくうれしくなった。

結果はインターネットで見ることができる。七時くらいに父が見つけた。結果は、金賞で横に丸が付いていた。丸が付いている金賞は県大会に行くことができる金賞だ。私はすぐにピアノ伴奏の友達に電話をした。私は、この大会で金賞を取れたのはその友達のおか

げだと思っている。一緒に頑張ってくれて、本番でも励ましてくれた。

他にも、この大会ではいろんな人に助けてもらった。サクスの辻先生にも、佐野先生にも、そして母にも。いろんな人に助けてもらって私も頑張ることができた。

県大会の結果は、金賞だったものの、次の大会には行けないダメ金だった。それでも、県大会で金賞を取れたことをうれしく思う。

私は、また高校でも県大会に行けるようにリベンジしようと思っている。高校では中学校よりも上手な人が多く、難しいけれど、今から頑張ろうと思っている。母も応援してくれている。私は母の応援にこたえられるように、まずは受験を頑張ろうと思う。